

日本共産党 市議会議員団 ニュース

発行 日本共産党
川西市議員団
連絡先
市役所控室
TEL740-1111
議員団直通
fax759-1811

議員連絡先
土谷一郎
TEL*fax793-2134
黒田みち
TEL*fax790-3055
住田由之輔
TEL*fax759-4541
大塚寿夫
TEL*fax793-2243



消防広域化と消防力強化について

12月市会 一般質問Ⅱ大塚議員 中央北地区計画について

1、土地区画整理事業区域 縮小の考えはないか、比較検討はされたのか

○土地区画整理事業施行区域
22分の縮小の考えはないか。

今回H22〜31年10年間の財政計画を発表されました。最初の5年間で62億円の収支不足とあるように財政が厳しい状況です。その中で区画整理事業を進めるわけです。事業費用を可能な限り少なくして、最小限の事業計画が望まれると考えます。

今回の施行区域を22分にされているが、複数の案を考へ比較検討がなされたのか。例えば、既存の建物は存置建物・土地として計画区域から外して、区域をもっと縮小する。都市計画道路についても文化前線は現状のままにする、せせらぎ遊歩道の幅員は16分必要なのか、縮小の検討など。事業費圧縮の検討はどのようになされたのかお聞かせください。

★答弁

県と協議、多面的に検討した。お金がかかるのは補償費が必要なものに止めている。

2、「住宅街区整備事業」失敗の原因と今回事業の整合性について

H10年に都市計画決定された「住宅街区整備事業」が失敗した原因を、長引く景気の低迷が原因とされている。であれば、現在も同じです。であれば、現在も同じです。であれば、現在も同じです。

住宅一辺倒を変更、土地区画整理を市が行い、土地利用は権利者にゆだねる。

3、全市民への説明責任について

事業内容を全市各地域で説明会を開き意見を聞くことが大切。なぜ行わないのか。見解をお聞かせください。

★答弁

議会に報告、市民には広報で知らせている。地権者との合意を図りながら、都市計画手続きの中で市民の声を聴く。

4、商業問題検討の考えについて

商業問題検討もせずに商業ゾーンを推進、市内・駅周辺商店活性化できると考えているのか、調査・検討はどのようにされるのか考えをお聞かせください。

★答弁

集客施設誘致による協同事業を希望する権利者が賛同者も募っている。どのようなことになるか決まった段階で調査する。

来年度予算 編成方針について

開発優先市政を総括し、財政の使い方を見直す考えについて。国の影響、景気の低迷が強く調され、市民・職員に負担押しつけの行政改革推進です。

★答弁

整備を進め快適・安全になった。借金はあるが解決を図りながら、中央北地区整備も過度にならないよう進める。

1、兵庫県で他市町に先駆け 広域化の市町組み合わせを決めた経緯について

★答弁

国で広域化が示され、県で協議、合意形成が見込まれる区域として示された。

2、広域化のメリットについて

★答弁

出動台数の増加、現場到着時間の短縮、出動隊員の増強、研修機会の拡大・等期待できる。

3、消防力強化の計画について

強化こそ望まれるがどのような計画でしょうか

★答弁

5年で20%退職であり、前倒しでの採用、研修派遣を積極的に行う。広域化もひとつの方策だ。

☆見解

現在消防職員の充足率は表のごとく65%です。広域化にすると現状のままで、充足率は99%になります。職員が増えなくてどうして答弁で言うメリットが出てくるのでしょうか。

日本共産党川西市議会議員団のホームページができました!
<http://jcp-kawanishi.main.jp/>

~できたてなので、まだ検索では見つかりません~ (・・*)

↑携帯には専用画面を用意
印刷→印刷専用画面へ

←メールはソフトを使うことなく送信できます。
←サイトマップには全目次

←過去の議員団ニュース
←各議員ごとの議会での活躍を読むことができます。

←政策分野ごとの議会での質問答弁を読むことができます。

←各会派の議案に対する態度がわかります。

←「中央北地区」などキーワードで質問答弁を探すことができます。

←この下には毎日の「しんぶん赤旗」記事を掲載

川西市・宝塚市・猪名川町消防力の基準と現有数一覧表

H21年4月1日現在

	川西市	宝塚市	猪名川町	合計	42万人基準
人口	161,310	225,982	32,404	42万人	
面積	53.44	101.89	90.41	245.74	平方km
消防職員数	144	228	44	416人	
職員基準数	222	340	76	638人	420人
充足率(%)	65	67	65	65%	99%
基準消防ポンプ車台数	8	16	3		
消防ポンプ車台数	8	15	3		
消防車総数	22	38	11		
1台搭乗人数	4	4	4	救急車3人。消防整備指針では1台5人	
消防団員数(実員数)	368	191	478		
ポンプ車数	30	11	31		

※広域にするだけで職員の充足率は65%から99%に引き上げる
消防職員数現在222人不足。広域化にすると4人不足。218人緩和される

一般質問 黒田議員

高齢者が安心して住み続けることが出来る

「介護保険の適正化」について

「介護保険制度」がはじまって10年目。川西市はこの10年間に人口は7685人、約4.8%の増加。

高齢化率は、16.3%から23.9%と7.6%の大きな伸びとなっています。

「介護の社会化」「自立支援」「利用者本位」「尊厳の保持」という基本理念で国民の期待を受けたわけですが、川西市は、阪神間でも高齢化率が高く「介護認定率が14.7%」と低い実態を受けて質問しました。

①国の法律を受けて川西市でも「介護保険条例」が制定。

「第2条」に書かれている目的を果たす制度になっているかという点について

・介護申請数と認定数の差異

・認定見直しで「判定」減による介護サービス打ち切りなどの現状・対応について

・サービス利用の現状（限度額に対する利用割合平均44.3%（H20年度決算）

・高齢者虐待や事件の実態などは、真の高齢者の尊厳を守り、自立支援になっていくかという考え方について

また、国に対して、住民の実態と制度の乖離に対する意見をあげることにについて

②介護報酬の適正化についての取組みについて

事業所への取組みの具体（不正受給・職員の待遇改善など）把握することについて

③介護保険給付費準備基金9億円を第1号被保険者に還元することの具体的考え方についてという点で質問。

★実態については地域の民生委員さんなどの協力を得て必要な措置をとっていききたい。

3年毎の見直しの時期に国に対して提言、要望をあげて行きたい。

苦情など市民からの声を受け適宜対応していく。

「不当な介護報酬請求」防止のため来年度から利用者に「利用報告」を送付する。

などの答弁がありました。

「国が基金を貯め込んでいるので還元すべき」と要請しているのだから、保険料・利用料の軽減をすべきと強く求めました。



「国民健康保険税」 値上げしない取組みについて

①一般会計からの繰り入れを還元（H19年度比3億7000万円減にしたことによりH20年度は1億8000万円）の赤字会計・・・これによっての値上げ案となつた）することによって、「国民健康保険運営協議会」から答申を受けた平均6.9%の値上げをしないようにするべきという立場で、質問しました。

★「市として諮問をし、値上げの答申をいただいたが、この間の経済状況では、来年度は値上げできない。」と答弁で明らかになりました。

①1クラス40人を超える学校もあり、まだまだ児童数の増加が見込まれる学校への増改築の早急な対応の必要性、具体化について

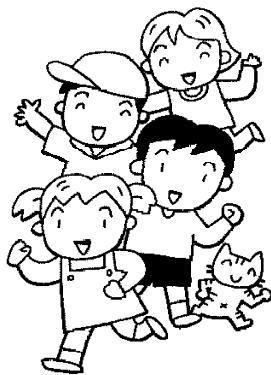
小学校児童数増加に伴う 教室確保・増改築について

②「北陵小学校」のように、児童数の増加のため、増改築されたにも関わらず、「図書室」がないなど、「特別教室」の確保も十分ではありません。留守家庭児童育成クラブの増改築と共に図書室の設置をすることについて

★35人以下学級、複数担任制などで、きめ細かい対応をしていく。

増改築については、「暫定的活用が可能かどうか対応を考える」と少し前向きな答弁でした。

予算がないというのではなく、必要な予算を確保し、教育を保障していくよう強く求めました。



待機児童解消へ 市立栄保育所存続を

川西市内は、9ヶ所の公立保育所（定員660人）、6ヶ所の民間認可園（定員510人）で保育されているものの、この間の雇用環境の変化・所得の落ち込みなどの社会状況により、保育需要が高く、今年度4月1日付けでも、新基準で13人、旧基準で50人の「待機児童」が居り、その後も増え続けている状況が続いています。

「廃止」が決まっている「市立栄保育所」ですが、「待機児童解消」を市の最優先課題として、入所児童募集停止をするのではなく、来年度は、「栄保育所」を存続すべきと迫りました。

★待機児童がたくさん居ることを認めながらも、新年度は「民間の入所人数を増やして対応する」という無責任な答弁に終始しました。



保育所整備計画

12月1日付け広報で、
☆ 多田・緑台地域
☆ けやき坂地域
来年度建設、
H23年度開所予定

2010年 新春の集い

1月10日（日） 午後2時～4時

川西市文化会館 2F レセプションルーム

米軍再編ドキュメンタリー「基地はいらない、どこも」上映



お話しします
国会議員予定
堀内照文参議員予定候補